

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	101人	算数	102人	理科	102人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	102人	算数	102人	理科	102人
------	----	------	----	------	----	------

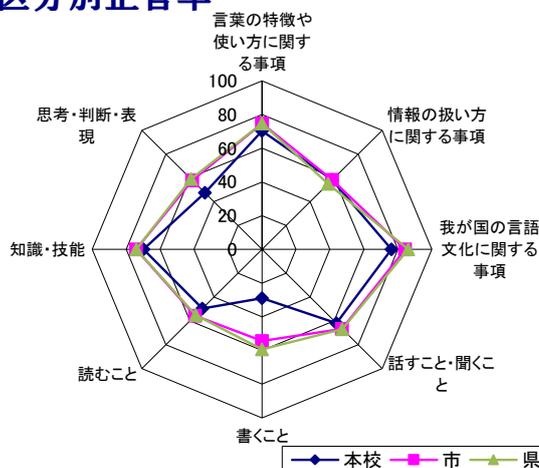
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.3	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	58.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.9	66.7	66.9
	書くこと	29.0	54.3	59.3
	読むこと	49.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	69.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	47.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

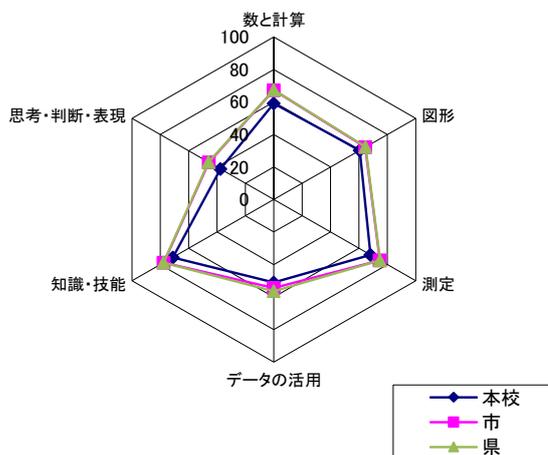
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○絵のせりふの空欄に適した指示する語を選ぶ問題では、県の正答率を1.2ポイント上回り95.1%だった。 ●漢字の書きに関して、「鼻」「短い」は、県の正答率よりも12ポイント以上低い。	・既習の漢字が定着するように、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習する。また、漢字の学習をするときには、書き順や読み方を確認するなどして、重点的に指導する。 ・日常的に文を書くときには、既習済みの漢字を用いて書けるように指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率に等しく、県の平均値を上回っている。 ○国語辞典の使い方の理解については、半数以上の児童が正答できている。	・分からない語句が出てきた場合は、日常的に辞書で調べる習慣を付けさせる。国語辞典を使う機会を増やし、語彙を広げられるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●漢字のへんやつくりの理解について、県の平均正答率を9.9ポイント下回っている。	・漢字を学習する際に、へんやつくりなど部首についての指導も行うことで、漢字の理解をさらに深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○話し手が伝えたいことの内容を捉える設問では、県正答率を5.9ポイント上回った。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかの設問は、県の正答率よりも14.1ポイント低い。	・学校生活でのあらゆる話す・聞く場面において、それぞれの共通点や相違点に気付かせたり、話を整理しながら聞いたりできるよう指導する。 ・自分の考えを伝える際には、その根拠を明確にし、筋道を立てて話すことができるよう指導をする。相手意識をもたせ、どのように話したらより伝わりやすいかを考えながら話せるような支援をしていく。
書くこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問は、県の正答率よりも31.9ポイント低い。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについての設問では、県正答率より24.7ポイント低かった。	・まず自分の考えをしっかりとらせ、その根拠を明確にし、文章に表せるよう指導をする。 ・文章を書く際には、自分が書きたいことの内容をはっきりさせて、「初め」、「中」、「終わり」の順で内容を整理し、段落も意識して書けるよう指導する。
読むこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○物語文の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかについての設問は、県の正答率よりも1.7ポイント高い。 ●説明文の叙述を基に文章の内容を捉えることができるかについての設問は、県の平均正答率よりも6.6ポイント低い。	・段落ごとに書かれている要点を押さえたり、あらすじを確認させたりするなど、内容を捉えながら読む習慣が付くよう指導する。 ・朝の読書の時間などを活用し、文章を読むことの楽しさを味わわせながら、読み取る力の育成につなげる。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.1	67.3	67.4
	図形	60.6	64.5	64.7
	測定	68.1	74.7	74.9
	データの活用	51.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	71.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	37.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

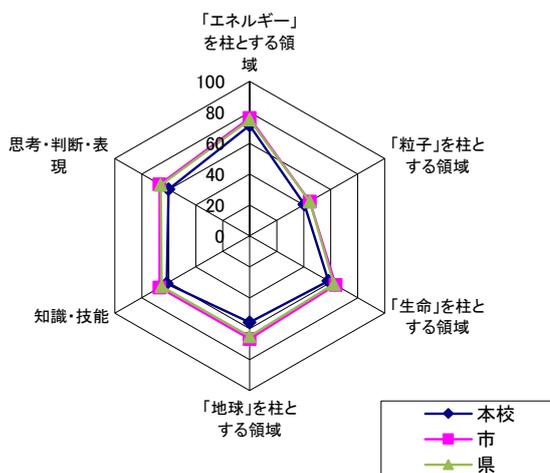
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県・市の平均値より下回る。</p> <p>○小数のしくみや表し方、3桁の数の計算についての問題の正答率は、県よりもやや高い。また、2桁÷1桁の計算、問題を解くための除法の立式についての問題は、県よりわずかに高い。</p> <p>●分数の大きさ、整数-小数第一位の計算、□を使った除法の式に合った文章問題を選ぶ、余りの考えを用いて理由を説明する問題については、県よりも10ポイント以上低い。</p> <p>●分数の数直線上での表し方、式の意味を言葉で表す問題については、県よりも20ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数の大きさや仕組みについて、数直線や具体物を用いて理解を深め、繰り返し練習問題に取り組みながら知識の定着が図れるようにする。 ・計算する力に個人差が見られ、基礎的な問題を確実に正確にできるよう、ドリルやプリント学習の課題に取り組みようにする。 ・文章問題の内容を正しく読み取れるよう、他教科においても文章を読み取る学習を大切に扱う。また、図や数直線などに表しながら理解を深めるとともに、類似問題に取り組みながら、文章問題を解く力を高められるようにする。
図形	<p>平均正答率は、県・市の平均値より下回る。</p> <p>○円の半径と直径について問う問題の正答率は、県よりわずかに上回っている。</p> <p>●円の中心とコンパスの使い方について問う問題の正答率は、県よりも10ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円や球の学習について、具体物を操作したり、タブレット端末を用いてシミュレーションができるような体験型学習を行ったりすることで、視覚的・感覚的に理解できるようにする。また、コンパスの使い方についても、シミュレーションを基に正しい使い方を確認し、繰り返し練習しながら定着が図れるようにする。
測定	<p>平均正答率は、県・市の平均値より下回る。</p> <p>○時間が経過する前の時刻を問う問題の正答率は、県よりもわずかに下回っている。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、その和を求める、はかりの目盛りを読み取る、身近な物の重さの単位について問う問題は、県よりも4ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、様々な単位が用いられていることを確認し、できるだけ多く具体物に触れたり、実際に測定したりしながら、量感を身に付けられるような活動を取り入れる。 ・計算の基礎となる数の仕組みについての理解を深め、長さや重さの単位の変換についての計算にもつなげられるようにする。
データの活用	<p>平均正答率は、県・市の平均値より下回る。</p> <p>●棒グラフを読み取り、2番目に多いものを求める問題の正答率は、県よりも4ポイント以上低い。</p> <p>●一目盛の数が異なる2つの棒グラフを読み取る問題の正答率は、県よりも5ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフを正しく作成したり、読み取ったりする基礎的な知識や、数量関係を分かりやすく整理する技能の定着が図れるよう繰り返し指導する。また、考えや理由を文章化する機会をできるだけ多く設け、表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.5	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	40.5	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	58.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	55.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	61.5	66.8	65.4
	思考・判断・表現	60.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県・市の平均値を4～5%ほど下回っている。</p> <p>○光の進み方や磁石の性質に関連する正答率は県・市と同程度である。</p> <p>○電気が流れるつなぎ方の正答率は県・市を上回る。</p> <p>●電気を通すものが鉄だけと勘違いする誤答が多い。</p> <p>●ゴムを伸ばす実験の結果から、設問の条件を満たす解答を推測する正答率が県・市を大きく下回っている。</p>	<p>・実験などの体験的な活動を行う前に、事象を捉える、課題を見出す、課題に対する予想をする、実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い、課題解決学習となるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県・市の平均値を4%ほど下回っている。</p> <p>○物の重さから同じ種類の木でできている積み木を推測する問題の正答率は県・市と同程度である。</p> <p>●姿勢を変えると人の体重が変わるかどうかを実験結果をもとに記述する問題の正答率は、県・市でも10%程度であるが、1%の正答率である。</p>	<p>・授業で学んだことは自分の身近なところでどのように生かされているかを実感できるよう、生活とのつながりを授業の中で指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県・市の平均値を4～5%ほど下回っている。</p> <p>○観察記録に必要な項目や植物の体の共通点を選ぶ問題の正答率は県・市と同程度である。</p> <p>●チョウの幼虫の成長と餌を食べる量の関連性を求める問題の正答率が県・市を大きく下回っている。</p> <p>●クモが昆虫ではないことを記述する問題の正答率が県・市を10%ほど下回っている。</p>	<p>・昆虫について、観察したことから何が分かったのか、他の昆虫についてはどうかなど、一般化しながらまとめるようにし、判断力や思考力を高めていく。</p> <p>・身近な自然の観察について、植物や昆虫などへの児童の興味・関心が、スケッチ、文章で表す活動に生かしたい。その際、どうしてそのように考えたのかなど、自分の考えや理由が文章で表現できるようにしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○かげと太陽の位置関係に対する基本的理解の正答率は県・市と同程度である。</p> <p>●時間の経過によるかげの動きから太陽の動きを推測したり、かげの長さから時間を推測したりする問題の正答率が県・市を大きく下回っている。</p>	<p>・実験の考察やまとめの際、事象の変化などを理科的な用語を用いて文章で表したり、他者に説明したりする機会を増やし、理由を明らかにしながら説明する力を育てる。</p>

宇都宮市立五代小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」という2つの設問において、共に肯定的回答率が県の割合を上回っている。特に学校の授業の予習をしている児童は、県の肯定的回答率51.9%を大きく上回り、56%だった。このことから、学校の授業を受けるにあたり予習、復習をする習慣と自主学習などの家庭学習が定着してきていると言える。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という設問において、県の肯定的回答率の71.2%に対して73.8%が肯定的な回答をしている。また、「授業を集中して受けている」という設問においても、肯定的回答率は90.8%で県の87.5%を上回っており、児童が積極的に、且つ集中して授業に取り組んでいることが分かる。

○「グループなどで話し合いに積極的に参加している」の設問では、児童の肯定的割合が76.3%で県に対して上回っている。また、「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」や「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問でも県の肯定的回答率を上回っている。このことから日々の授業に話し合う活動を取り入れることで、進んで話し合い活動に取り組む態度が育成され、自分の考えの深まりや広がりを実感していることがわかる。今後も児童が自信をもって自分の考えを発表し、学習への意欲につながるよう話し合いの場を設けていきたい。

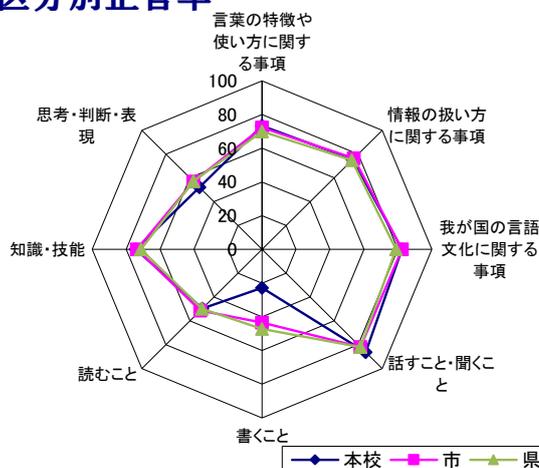
●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心がけている」という2つの設問において、共に県の肯定回答割合を5ポイント以上下回っており、睡眠に関する基本的な生活習慣の改善が求められている。保健の授業や日々の呼び掛け等で、睡眠の大切さについて児童にも意識付けていく必要がある。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定回答率が92.7%と高い数値にも関わらず、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という児童の肯定的割合は59.1%にとどまっている。このことから、学習の有効性は感じているが、「できない」と感じると諦めやすいことがうかがえる。そのため、できることから少しずつハードルを上げる、スモールステップの手順をふまえた授業を考え、児童が分かる喜びを感じ、粘り強く問題に取り組む姿勢を育成したい。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.3	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	75.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	86.3	81.9	82.0
	書くこと	22.8	43.5	47.2
	読むこと	49.6	51.4	49.8
観点	知識・技能	74.3	73.6	71.3
	思考・判断・表現	52.1	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

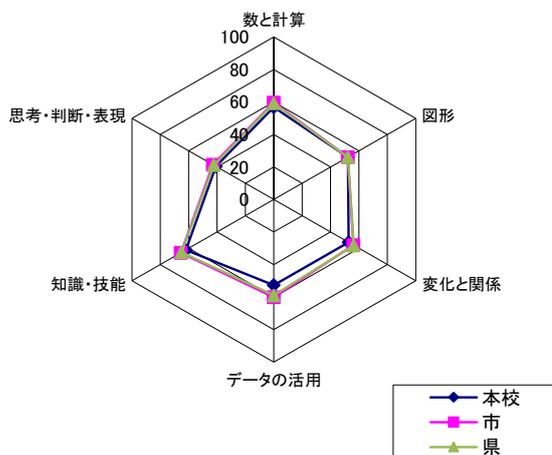
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は県や市の平均値より高い。 ○第4学年配当漢字の読みは市や県の平均値より高く、正答率94%を超えている。漢字の書きは、「衣類」「旗」が市や県の平均値より高く、「改める」については、市の平均値より3.6ポイント低かったが、県の平均値より9.3ポイント高かった。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるか連用修飾語を答える設問では、平均値より低く、正答率は12.8%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や家庭学習で国語の教科書の復習ページ、AIドリル等を使用しながら、既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、定着を図っていくようにする。 新出漢字を指導する際は、漢字の意味や熟語に触れながら、意欲的に学べるようにする。 修飾語を意識させるために、文章を読む際、どの文節が主語、述語、修飾語に当たるのかを確認し、四角で囲むなどして視覚的にも捉えられることができる活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は市の平均値よりやや低く、県の平均値よりやや高い。 ●漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかの設問では、市の平均値より0.9ポイント低く75.5%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語の「漢字辞典の使い方」の学習時、部首索引を活用する機会を多く設ける。 新出漢字を指導する際には、部首の位置や名前などの漢字の成り立ちを意識させ、知識を高める指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は県や市の平均値とほぼ同じである。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ことわざや慣用句などの意味を調べる活動を取り入れ、それらを用いることよき気付け、積極的に使うことができるようにする。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は県や市の平均値より高い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかの設問では、県の平均値より5.8ポイント、市の平均値より7.3ポイント高く正答率は84.3%だった。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して考えをまとめているかの設問では、市の平均値より0.1ポイント低く、正答率は70.6%だった。また、無回答率は10.8%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話し合う際に、教師が机間支援を行い、ペア学習等で出た意見を確認したり、整理したりして、内容の把握ができるように指導していく。 話の内容の中心を意識させて話を聞いたり、文章を要約する活動を取り入れ、相手が一番伝えたいことが捉えられるよう指導していく。
書くこと	<p>平均正答率は、県や市の平均値より低い。 ●「エコ活動」についてのアンケート結果を読み、7行～9行の間で文章を書く設問では、市の平均値より24.7ポイント、県の平均値より29.1ポイント下回り23.5%だった。また無回答率は44.1%だった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いたり、自分の考えを書いたりする設問も正答率が20%前後であった。書くことに苦手意識があったり、時間配分がうまくいかなかったことが原因として考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや理由を表現する機会を授業中や宿題等で繰り返し取り組ませることを継続し、書くことへの抵抗感を下げながら文章力を高められるようにする。 段落の意味や書き方等を指導し、正しい書き表し方を身に付けながら表現する力を育てる。 自分の言葉で記述する際に、「何文字以内」や「○○という文字を入れて」といった条件を加えることで記述力を育てる。
読むこと	<p>平均正答率は、県や市の平均値より低い。 ○登場人物の性格について説明した文として、適するものを選ぶ設問では、県の平均値より4.9ポイント、市の平均値より3.2ポイント高く、平均正答率は44.1%だった。 ●登場人物の気持ちについて説明した文として、適するものを選ぶ設問では、県の平均値より4.4ポイント、市の平均値より7.6ポイント低く、平均正答率は53.9%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章では、要点を捉えた上で段落相互の関連を考える活動を通して、段落構成を理解できるようにする。 文学的な文章では、心情の読み取りでその根拠となる部分を意識させるような指導を行っていく。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.8	59.7	59.2
	図形	52.1	52.1	52.1
	変化と関係	52.7	56.1	56.3
	データの活用	52.7	60.1	58.9
観点	知識・技能	62.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	40.8	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

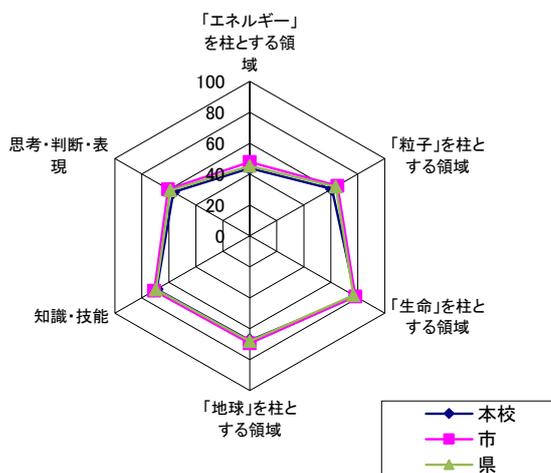
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均値より下回る。</p> <p>○「大きな数の読み方」、「1兆は1億の何倍か」を答える問題の正答率は、それぞれ市・県より上回っている。</p> <p>●「四則混合の式」の計算の順序を答える問題の正答率は、市より9.5ポイント、県より11.3ポイント下回っている。また、「話し合いの結果から考えられる計算法則」として正しいものを選ぶ問題の正答率は、市より8.2ポイント、県より6.2ポイントと、それぞれ下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物などを活用しながら、位の位置を一つずつ確認することで、確認しながら取り組めるようにする。 ・問題演習後の解説の際に、一つ一つの解法の手順を確認したり、言葉でのやり取りを交えたりしながら取り組めるような授業展開を図っていく。 ・知識、技能に個人差が大きいため、個に応じた支援を行い、定着を図っていく。
図形	<p>平均正答率は、県・市の平均値と同じ。</p> <p>○「180度より大きい角の大きさを求める」問題の正答率は、市より12.2ポイント、県より4.6ポイント上回っている。</p> <p>○「面積の単位の関係を説明した文の空欄に当てはまる数を書く」問題の正答率も、市より3.7ポイント、県より4.6ポイント上回っている。</p> <p>●「ひし形の作図」が十分でなく、正答率は、市より7.6ポイント、県より11ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で図形を見出したり、図形と図形を関連付けたりして、図形のもつ特徴や性質に関心をもてるような活動を多く取り入れる。 ・作図については、図形の定義や性質をもとに正しく理解できるよう、ドリルやプリントを使って繰り返し指導する。
変化と関係	<p>平均正答率は、市・県の平均値より下回る。</p> <p>○「正方形の段の数と周りの長さの関係」の表を横に見て答える問題の正答率は、市・県どちらも2.8ポイント上回っている。</p> <p>●同じ問題で、「伴って変わる2つの数量の関係」について、表を縦に見て答える問題では、市より7ポイント、県より9.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表から情報を読み取ったり、表したりする活動を多く取り入れることで理解を深め、数量の関係を捉える力を身に付けられるようにする。 ・文章問題への苦手意識を減らし、意欲的に取り組むために他教科においても文章問題を解く機会を設けて、内容を正しく把握する力を身に付けられるよう繰り返し指導する。
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均値より下回る。</p> <p>○「2つの折れ線グラフから分かることとして、正しいものを選ぶ」問題の正答率は、市・県どちらも同程度である。</p> <p>●「けん玉、あやとり調べ」の表に、条件に当てはまる人数を書き入れる問題の正答率は、市より6.2ポイント、県より5.5ポイント下回っている。また、「どちらもしたことのない人数」を答える正答率は、市より11.2ポイント、県より8.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科においてもグラフや表を読み取る時間を確保し、設問の中身を正確に捉える力を養っていく。 ・記述式の設問での無解答率が高いため、自分の考えを友達に伝えたり、文章にして表現したりする活動に力を入れていき、理由や根拠を示しながら説明できる力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	60.9	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	67.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	56.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○簡易検流計の針の振れ方から電流の向きや電流の大きさを読み取る問題の正答率は、県や市の平均値より高く、よくできている。</p> <p>●乾電池のつなぎ方とその名称や電流が大きくなる回路についての問題の正答率は、県や市の平均値より低く、課題がみられる。</p>	<p>・簡易検流計の接続や操作について、今後も一人一人が行うとともに、グループ等で確認し合えるようにする。</p> <p>・一人一人が自分の回路で実験を行うことになるので、実験の目的、予想、方法、記録の仕方の確認と共有をしっかり行ってから実践させるようにする。また、実験後の結果、考察、まとめを全体で行い、内容が正しく確実に身に付くようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○ボールに空気を入れると弾む理由を説明する問題の正答率は、県や市の平均値より高く、よく理解できている。</p> <p>●閉じこめた空気や水の問題、金属を温めたり冷やしたりしたときの体積変化についての問題の正答率は、県や市の平均値より低く、課題がみられる。</p> <p>●ものの温度と体積や、水を冷やす実験についての正答率が県や市の平均値より低い。特に、予想が正しかった場合に得られる実験結果を構想することや、温度による金属の体積変化についての理解に課題がみられる。</p>	<p>・閉じこめた空気では、一人一人で行うことになるので、実験の目的、予想、方法、記録の仕方の確認と共有をしっかり行ってから実践させるようにする。また、実験後の結果、考察、まとめを全体で行い、内容が正しく確実に身に付くようにする。</p> <p>・閉じこめた水、水と金属のあたたまり方の実験では、「○なら～に、××なら～になる」と「予想を確かめる実験」になるようにし、観点をもって実験の結果を見られるようにする。</p> <p>・実験を行う際、分担して実験器具の準備や実験、記録などができるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○腕を曲げたときの筋肉の様子や関節についての問題の正答率は、県や市の平均値とほぼ同じである。</p> <p>○季節による気温や動物の様子の違いについての問題の正答率は、県や市の平均値より高く、よく理解できている。</p> <p>●一方、季節の変化とカエルの様子を関連付ける問題の正答率は、県や市の平均値よりやや低く、課題がみられる。</p>	<p>・ヒトの体のつくりと運動の学習では、今後も自分の体を触ったり他の動物を観察したり、資料を効果的に使ったりして、体を曲げられるところや体を動かすしくみについて調べさせ、結果を分かりやすく記録できるようにする。</p> <p>・生き物の様子を季節ごとに一年間観察する際、植物の様子(葉の数・大きさ、くきの伸び等)、動物の様子(個体数・大きさ・活動内容等)と気温(水温)を関連付けて行えるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○方位磁針の使い方や、星の並び方や見える位置、星の明るさや色についての正答率は、県や市の平均値より高く、よく理解している。</p> <p>●月の動き方と動く向きについての正答率は、県や市の平均値を大きく下回り、課題がみられる。</p> <p>●実験の結果から土の粒の大きさと水のしみこみややすさの関係を読み取る問題の正答率は、県や市の平均値より低く、課題がみられる。</p>	<p>・今後も家庭と連携して星や星座の観察ができるようにするとともに、NHK for schoolやタブレット等を活用して学習を進める。</p> <p>・月齢カレンダーを掲示・活用して、月の観察日時を具体的に告知し、観察させるようにし、月の形や動き方についてまとめるようにする。</p> <p>・土の粒の大きさと水のしみこみ方の実験では、予想を明確にもたせ「予想を確かめる実験」になるようにし、結果と粒の大きさの関連を意識できるようにする。</p>

宇都宮市立五代小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の設問に対する肯定的回答率は97.2%であり、また、「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の設問に対する肯定的回答率も60.4%と高い値を示した。家庭学習の定着もさることながら、自己の学力をより向上させるために、自分の興味関心のある課題に率先して取り組むことが効果的である考える児童が多いといえる。

○「毎日、朝食を食べている」の設問に対する肯定的回答率は96.2%であり、また、「早寝、早起きを心掛けている」の設問に対する肯定的回答率は80.2%と、食事・睡眠に関する基本的な生活習慣の大切さを実感し、実践している児童が多いといえる。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の設問に対する肯定的回答率は85.8%であり、また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」の設問に対する肯定的回答率も73.6%と、県・市の平均よりも高い値を示した。国語や社会などの学習で自分の住む地域や社会情勢に関心をもたせる授業展開の工夫の成果が出てきているので、今後も継続して取り組ませていきたい。

●家庭での1日の勉強時間については、平日・休日ともに「30分以上1時間未満」と回答する児童の割合が多く、県・市と比べて勉強時間の平均が短いといえる。本校では「家庭学習のきまり」において、学年の発達段階に応じた学習内容や学習時間についての目安が決められているので、再度確認する。また、家庭学習強化週間も設けてはいるが、習慣が身に付いてきた頃に期間が終了してしまうこともあるので、継続した取り組みになるよう適宜指導していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の設問に対する肯定的回答率は62.2%であり、また、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」の設問に対する肯定的回答率も51.9%と、県や市の肯定的回答率と比べて低い値を示した。課題やテストが終わってしまったら学習は終了という意識が強く出ているので、新しい学習においても既習内容の積み重ねになることが多いので、復習と予習のバランスを大切にしつつ、既習内容の反復学習に力を入れていきたい。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしているか」の設問に対して、1時間以上3時間未満と回答する児童が多く、県・市の平均値と比べて本校ではゲームと向き合う時間が長い児童が多いといえる。学校と家庭で連携して、家庭でのきまりを決めていく必要がある。

宇都宮市立五代小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の知識・技能の確実な習得を目指す。 主体的に学習に取り組む、自分の力で課題を解決できる手立ての工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を見取り、適切に指導・支援する。 結果の予想や課題解決の仕方や手順など、学習の見通しを立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科とも、多くの領域で正答率が県・市の平均正答率に近い値を示している。 漢字や計算に個人差がみられる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分な児童も見られる。 自分の意見を書いてまとめることに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本、既習内容の定着 基本的な学習態度の指導徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。